

Ties Bind : 噂した誰かとの繋がりがや親近感を感じさせるインタラクティブアート

鈴田智也^{†1} 金谷一朗^{†2} 山本景子^{†1}

概要 : 本論文では、「噂されるとくしゃみが出る」という俗信を基に、SNS 上で自分に関する噂が投稿されるとくしゃみが誘発されるインタラクティブアート作品“Ties Bind”について報告する。本作品では、鑑賞者に関連するワードを含む投稿が SNS 上で行われると、その投稿を検知し、くしゃみを誘発するためにエアポンプが作動し、マスク型デバイスから胡椒が鑑賞者に向けて噴出される。また、本作品を用いて鑑賞者が噂される側と噂する側の両方を体験し、噂した誰かとの繋がりがや親近感を感じさせることは可能かを検証する実験計画についても報告する。

1. はじめに

古来より、「噂されるとくしゃみが出る」という俗信が存在する。俗信とは「自然現象などに対する観察・経験・解釈から起こり蓄積された知識[1]」であり、自然や日常生活での経験や観察に基づいて、特定の現象同士や現象と行動・思想を結び付けるものである。まだ医療が発達していなかった時代に、風邪や死を恐れた人々が何者かの仕業だと信じるため、「くしゃみは他人の思いや力によって出る」と考えられるようになったことが「噂されるとくしゃみが出る」というように変化したとされる[2]。そして、時代が進むにつれ解釈の幅が広がり、「万葉集」などの創作物の中では相手のことを愛おしく思う表現としても用いられるようになり、ことわざでは「一に褒められ、二憎まれ（振られ）、三惚れられて、四風邪をひく[3]」というように「くしゃみ」をする回数によって相手の気持ちを推し量るなど、やがて人同士の繋がりを表す表現へと変化した。

一方、現代ではソーシャルネットワークサービス（SNS）の普及により、誰もが簡単に個人に対する情報や噂を投稿することができ、それらが共有・拡散されることで、瞬く間に多くの人々に開示される。情報量の多さや匿名性の高さから、噂される本人はその噂が誰から発信されたものなのかの目星をつけることは難しい場合も多く、そこに古来より見られていた人同士の繋がりは見られにくい。

そこで、本作品では「噂されるとくしゃみが出る」という俗信を SNS 上での噂において再現することで、噂を発信した誰かに対しての繋がりがや親近感を噂された人に感じさせる試みに着目する。

2. 関連作品

“Hack_action!![4]”という作品では、くしゃみをする瞬間の顔をしたお面が取り付けられたマシンが 3 台並び、トレンドワードや作品名がそれぞれに割り振られている。これらのワードを含む Twitter(現 X)の書き込みをリアルタイムで取得すると、マシン

ンが作動し「くしゃみ」と似た音と動作をするメディアアートである。3 台のマシンのうち、あまりくしゃみをしないマシンに自分を重ねることで、SNS に対する疎外感として共感したり、頻繁にくしゃみをするマシンと対比することで、噂をされたことに対する嬉しさや希望を感じたりさせたりすることを狙った作品である。

これに対して本作品では、目の前には存在しない噂を発信した他者に対して繋がりがや親近感を感じさせることを狙いとする。そのために、SNS 上で自分自身に関する噂が投稿されると噂された本人にくしゃみを誘発することで噂されたことをフィードバックする作品を製作する。

3. Ties Bind : 噂した誰かとの繋がりがや親近感を感じさせるインタラクティブアート

3.1 Ties Bind

古来からの文などで相手への思いを綴っていた時代に比べ、そばにいない人同士の繋がりは軽薄化してきている。これは、SNS の発達による匿名での言葉の発信のしやすさや共有、拡散のしやすさによる情報量の多さが原因だと考えられる。この薄く感じる人同士の繋がりをより強固なものへ生まれ変わらせ、お互いが親近感を分かち合えるようにし、絆を蘇らせることを期待して本作品を制作した。家族や友情、愛情など、強い感情的・精神的な繋がりを指す人々を結び付ける絆という意味の「Ties that bind」から作品名を「Ties Bind」と命名した。

3.2 作品構成

システム構成図を図 1 に示す。作品は、胡椒制御部（図 2）と SNS 送信用 PC から構成され、その間は無線接続させている。胡椒制御部は、制御用マイコンと送風用のエアポンプを格納した高さ 10[cm]、縦横 30[cm]の箱に、飛沫防止用の囲いとマスク型胡椒入れをマイクスタンドに装着した設置型の装置である。

^{†1} 東京電機大学

^{†2} 長崎大学

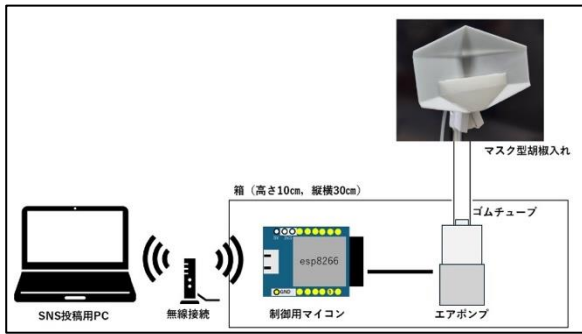


図 1 作品のシステム構成



図 2 胡椒制御部の外観

3.3 体験の流れ

本作品は、噂する側の体験と噂される側の体験の2つの体験が可能である。まず、噂する側の鑑賞者はSNSで誰かに関する話題を投稿することで胡椒噴出機が動作し、胡椒を噴出させる。一方、噂される体験をする鑑賞者は胡椒噴出機のマスク型胡椒入れに鼻が近づくよう座る。SNSでその鑑賞者自身に関する話題が投稿されると、胡椒噴出機から胡椒が噴出される。これにより、くしゃみが誘発される。

3.4 動作の仕組み

胡椒制御部のマスク型胡椒入れには背面からゴム管が繋がれており、このゴム管を通してエアポンプで風を送り込むことでマスク型胡椒入れの中で胡椒が舞う。制御にはWi-fiモジュール（Esp8266）を用いる。5Pinから出力される電流だけではエアポンプが十分な風を送れないため、外部電力として単三電池を4本用いて出力を増幅させている。また、エアポンプのモーターに負荷がかかった場合でも電流の逆流を防止するためダイオードを用いている[5]。

IFTTTを用いてSNS送信用PC上のXから定期的にIPSを習得し、特定のワードを含む投稿を検出することでWebhooksを通じてBlynkのクラウドサーバへリクエストを送信する。Blynk上では仮想ピンと値（0,1）を設定しておき、リクエストを受信することで仮想ピンの値を更新する。この更新情報をEsp8266にリアルタイムで通知することで、Blynk内の仮想SwitchをONにできる。また、Arduino IEDでBlynk上のSwitchがONの時に、エアポンプを10秒動かし、OFFの時に止めるという制御を施す。

4. 実験計画

SNS (X) 上で自身に関する噂が発信されたことを「くしゃみ」としてフィードバックする作品“Ties Bind”を通して、噂した人に対しての繋がりや親近感を噂された人に感じさせることは可能かを検証することを目的とする実験を実施する予定である。

まず、鑑賞者には事前アンケートを行い、自身が噂を気にするタイプか、噂を発信したことはあるかなどの特性の調査を行う。続いて、鑑賞者を3人グループに編成し、それぞれ、①胡椒噴出機を用いた噂される側の体験、②Xを用いた噂する側の体験の両方を①②の順番で行ってもらう。各体験後には噂される側とする側でそれぞれ、本作品を通じて噂を発信した人との間に繋がりを感じたかどうかや作品のコンセプトの理解度などをアンケートにより評価する。なお、噂の発信は作品とは離れた場所にて行ってもらう、噂される側を体験する人と噂を発信する人はお互いが視界に入らないようにすることで、実環境で噂する側とされる側が遠隔にいる状況に近づける。

5. 終わりに

本作品“Ties Bind”は、噂された人がSNSに発信された相手からの思いをくみ取り、くしゃみを通じて相手の存在を意識することで、再び人同士の繋がりを作りだすことの助けになることを期待している。その評価と考察は今後の課題である。

参考文献

- [1] デジタル大辞泉,「俗信（ゾクシン）の意味や使い方 分かりやすく解説」, Weblio 辞書, <https://www.weblio.jp/content/%E4%BF%97%E4%BF%A1>, (閲覧日:2024年11月30日)
- [2] 三浦康子,「なぜ「噂をされるとくしゃみが出る」というの?由来・回数による意味」, All about, <https://allabout.co.jp/gm/gc/486578/>, (閲覧日:2024年11月30日)
- [3] 北澤篤史,「【一に褒められ二憎まれ三惚れられて四風邪引く】の意味と使い方や例文」, ことわざ・慣用語の百科事典, <https://proverb-encyclopedia.com/ichinihomerareninikumaresannihorererasesinikazehiku/>, (閲覧日:2024年12月19日)
- [4] 尾和優多,「Hack_action!!」研究成果一覧」, 長岡造形大学卒業・修士研究展, <https://sotsuten.nagaoka-id.ac.jp/artwork/22794/>, (閲覧日:2024年11月30日)
- [5] 赤川シホロ,「第11回 Arduino (アルディーノ) でモーターを制御する! (その1) モーターの基本を勉強してみる。」, DEVICE PLUS, <https://deviceplus.jp/arduino/entry011/>, (閲覧日:2024年11月30日)